

耳ではなく目で

ヨブ記 40章 6-42章 6節

はじめに

月の第四週に私が説教をさせていただく時には、旧約聖書の「ヨブ記」からお話することになっています。今日は、40章6節から42章6節に書かれている内容を学びたいと思います。ここには、神様とヨブの二回目の対話が書かれています。

神様は37章までずっとヨブに対して、沈黙を守ってきました。しかしついに神様が、長い沈黙を破って口を開き、38章からヨブに語りかけるのです。38章から40章5節までが、神様とヨブの一回目の対話です。そこで神様は、御自身が自然と動物を造られ、それを治めておられることをヨブに示されました。全知全能の神様の御業とその偉大さを示されたヨブは、「**私は取るに足りない者です**」(40:4)と答えるだけで、それ以上何も語るができなくなってしまうのです。

何も語るができなくなってしまったヨブに対して、追い打ちをかけるように、神様はさらにヨブに対して語りかけていきます。それが今日の聖書箇所の内容になります。最初に、「ヨブ記」のこれまでの流れを少し振り返ってみましょう。

1. ヨブの試練と信仰

ヨブは、誠実な心を持っていて、神様を愛し悪から遠ざかっている人でした。神様は、そんなヨブを祝福して、多くの財産と多くの子どもを与えられました。

しかしそんなヨブに、サタンが目を留めて、神様にこう言うのです。「ヨブは、あなたに祝福されて、多くの財産と多くの子どもに恵まれているから、あなたを愛しているに過ぎません。もし財産と子どもを失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブの財産と子どもを奪うことを許可しました。するとヨブは、一日の内に犯罪や自然災害に巻き込まれて、すべての財産と子どもを失ってしまうのです。

しかしヨブは、そのような試練の中でも、決して神様への信仰を捨てませんでした。彼は、神様を礼拝してこう言うのです。「**私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな**」(ヨブ記 1:21)。

するとサタンはもう一度、神様にこう言うのです。「ヨブは、財産と子どもを奪われても、健康に恵まれているから、あなたを愛しているのです。もし健康を失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブの健康を奪うことを許可しました。するとヨブは、足の裏から頭の先まで、悪性の腫物で侵されるのです。夜眠れないほどの痛みがあり、やせ細っている

きます。内臓も侵され、それが原因で体から悪臭が出るようになりました。そのため、人々からも避けられ、ゴミのように扱われます。そして妻からも、「**神を呪って死になさい**」(ヨブ記 2:9)と見捨てられます。

しかしヨブは、そのような試練が続く中でも、決して神様への信仰を捨てませんでした。彼は、妻に向かってこう言うのです。「**あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。

ヨブは、財産を失い、子どもを失い、健康も失い、妻からも見捨てられてもなお、神様への信仰を捨てなかったのです。これがヨブの信仰です。

2. 三人の友人たちによる「因果応報」による災いの解釈

ヨブには、三人の友人がいました。エリファズ、ビルダデ、ツォファルの三人です。彼らは、ヨブが災いの中で苦しんでいると聞いて、ヨブを慰めるために駆けつけて来ました。彼らは最初、ただヨブのために涙を流し、一週間、一言も語らずに、ヨブのそばに寄り添い続けました。

しかし三人の友人たちは、ヨブと会話を交わし始めると、次第に態度が変わっていきます。ヨブ記は全部で 42 章ありますが、3-31 章までがヨブと三人の友人たちとの討論の内容が書かれています。その討論のテーマは、ヨブの災いの原因は何かというものです。

三人の友人たちは、ヨブの災いの原因を「因果応報」の原理で解釈して、ヨブを教え導こうとします。「因果応報」とは、人は必ず自分の行いによって報いを受けるというものです。三人の友人たちは、ヨブの災いの原因は、ヨブの罪にあると考えます。ヨブが何か大きな罪を犯しているから、このような大きな災いに遭っているのだと考えたのです。だからもし、ヨブが自分の罪を認めて神様に悔い改めるなら、災いは終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだとヨブを教え導こうとするのです。

3. ヨブの問題点

しかしヨブは、三人の友人たちの考えに納得できないのです。ヨブは神様に愛され、自分も神様を愛し、そして隣人をも愛してきたのです。ヨブには、このような大きな災いを受けなければならないほどの大きな罪があるとは、どうしても思えなかったのです。もちろんヨブには全く罪がなく、完璧な人間だったわけではありません。ヨブも私たちと同じ人間ですから、確かに罪がありました。しかしヨブは、自分の罪を神様に隠すことなく、神様の前に告白し、赦しを求めたのです。そして贖い主に頼り、いけにえも献げて、罪の贖いをしてきたのです。神様からも、「**彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もいない**」(ヨブ記 1:8)と言われるほど、ヨブと神様との関係には問題はなかったのです。

それなのに突然、神様との親しい交わりを失い、祝福された人生を失い、大きな苦しみに襲われ、孤独と絶望のどん底に突き落とされたのです。ヨブは、神様とサタンとのやり取り

を知りません。ですから、神様がなぜ自分をこんな目に遭わせるのか、なぜ神様が沈黙を守っているのか、なぜ助けてくださらないのかが分からないのです。

ヨブは、神様の沈黙があまりにも長く続くので、次第に神様に対して不信感を持つようになっていくのです。自分は誠実に歩んでいるのに、神様が私に誠実に関わってくださらない、そうしてヨブは、神様がおかしい、神様が間違っていると考えようになり、ついには、神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになっていったのです。

そのような中で、ヨブの前に「エリフ」という人が現れます。エリフは、ヨブと三人の友人たちとの討論をずっと聞いていました。しかしずっと聞いている中で、エリフは段々と怒りを覚えてきたのです。それは、ヨブが神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになっていったからです。そうしてエリフは、32-37 章まで、ヨブのその問題点について語り、ヨブを教導こうとするのです。ヨブはただただ、エリフの言葉に黙って耳を傾けるのです。

4. 悪を治める神

エリフの言葉が終わると、38 章からついに、神様が長い沈黙を破って、ヨブに対して口を開いていきます。38-39 章で神様は、御自身が自然と動物を造られ、それを治めておられることをヨブに示されました。全知全能の神様の御業とその偉大さを示されたヨブは、「私は取るに足りない者です」(40:4) と答えるだけで、それ以上何も語るができなくなってしまうのです。

しかし神様は、何も語るができなくなったヨブに対して、語ることを止めません。なぜなら、ヨブの問題点がまだ解決していなかったからです。神様は 40:8 で、ヨブの問題点を指摘します。「**自分を義とするため、わたしを不義に定めるのか**」。ヨブの問題点は、エリフが言うように、神様よりも自分のほうが正しいと考えたことです。自分は正しく、神様は間違っていると考えたことです。この問題点を解決するまで、神様はヨブに語り続けなければならなかったのです。

40-41 章で神様は、御自身が悪を治め、支配しておられる方を示されます。38-39 章では、神様が自然と動物を治めておられることが語られました。そして 40-41 章では、悪の問題が取り扱われるのです。私たち人間を苦しめる罪、その背後にある悪の問題です。そして神様はヨブに、「もしお前がわたしよりも自分を正しいとするなら、お前にはこの世にはびこる悪を治め、支配することができるのか」と問われるのです。

40-41 章には、二つの動物が出てきます。それは、「河馬」と「レビヤタン」です。この河馬とレビヤタンは、実在の動物について書かれているよりも、「悪の存在」を比喩的に書かれていると考えられます。なぜなら、実在の動物にしては、あまりにも現実離れした表現で描かれているからです。こうして神様は、御自身が悪を治め、支配しておられる方を示されるのです。

5. あなたには、すべてができること

では、それに対してヨブは何と答えるのでしょうか。42：2 を見てみましょう。「**あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました**」。ヨブは、神様が悪をも治め、支配しておられることを知ったのです。ヨブは、神様とサタンのやり取りを知りませんでした。サタンがヨブの財産や家族や健康を奪う時も、常に神様の許可が必要であったことを知りませんでした。神様はその都度、サタンに「**おまえの手に任せる。ただし、彼自身には手を伸ばしてはならない**」(ヨブ記 1:12)「**ただ、彼のいのちに触れるな**」(ヨブ記 2:6)とされていたのです。神様は、サタンをも治め、支配しておられました。そしてヨブを守ろうとされていたのです。

しかしヨブは、神様の沈黙があまりにも長く続くので、自分は神様に捨てられてしまったのではないかと、神様に愛されなくなってしまったのではないかと考え、ついには、神様を批判し、神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになってしまったのです。

しかし、神様が長い沈黙を破って、二度にわたって語りかけてくださり、ヨブとの交わりを回復してくださったのです。そして、神様が全知全能であり、全世界を造り、それを治め、さらに悪をも治め、支配しておられることを示してくださったのです。それを知ったヨブは、神様への信頼を取り戻したのです。神様は、悪をも治め、支配しておられ、それらも神様の御計画の中にあると知ったのです。悪によって神様の御計画が揺るがされることは決してないこと、神様の御計画は悪をも支配して、必ず実現していかれることを知ったのです。

ヨブは、神様との交わりを回復したことによって、自分が経験している苦しみも悲しみも、すべて神様の御計画の中にあることを知ったのです。たとえそこに、悪の存在が働いていたとしても、神様がそれを治め、支配しておられることを知ったのです。自分の人生のすべては、神様の御計画によって知られ、治められ、守られ導かれているなら、大丈夫だと平安を得ることができたのです。

42：5-6 でヨブはこう言います。「**私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で**」。ヨブは、これまで神様のことを耳で聞いていました。しかしこの試練を通して、神様のことを「目で見た」と表現しています。それは、「心で分かった」ということでしょうか。神様のことを「頭」ではなく、「心」で分かったということでしょうか。私たちは、試練を通して神様のことを知っていきます。耳で聞くだけでなく、経験を通して知る時、私たちは心の底から、神様を理解するのです。詩篇 119：71 には、こうあります。「**苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきてを学びました**」。私たちは、苦しみや悲しみを通して、神様を学んでいくのです。自分でデボーションを通して読んだ御言葉を、また説教を通して聞いた御言葉を、試練を通して私たちは、本当の意味で知っていくのです。ただ耳で聞くだけでなく、苦しみや悲しみの中で、御言葉の本当の意味を知っていくのです。ヨブも、耳で聞くだけでなく、御言葉が心で分かった時に、悔い改めることができたのです。

私たちは、神様のことを耳で聞いているだけでは、私たちの力にはなりません。私たちは、生活の中で、経験の中で神様を知っていく時にこそ、私たちの力となっていきます。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは全知全能の神であり、すべてを治め、支配しておられる方です。あなたが知らないことは何もなく、あなたにできないことは何もありません。私たち一人ひとりの人生をも、あなたがすべてを治めておられます。私たちの人生にどんなことが起ころうとも、すべては神様の御計画の中にあります。あなたは悪をも支配される方ですから、私たちを守ってください。

どうか、あなたを本当の意味で知っていくことができますように。あなたをただ知識として知っていくのではなく、経験を通して心で知っていくことができますように。耳で聞く知識は、なかなか私たちを変える力にはなりません。どうか心であなたを知り、真実に私たちが変えられていきますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。